

その他の検討事項について

令和 6 年 3 月 2 5 日

【目的「ヒグマとの緊張感のある共存関係」】

<主な意見概要>

- ・クマの前で人は緊張が必要という話で皆さんが納得していく。この表現にこだわりアピールしてよいのでは。
- ・歴史的に、野生動物と人は争いを続けて、今は負けているから被害が出ているのであって常に緊張感が必要と思う。
- ・野生動物と向き合う、管理するという意味でこの表現はよいと思う。

⇒ 今後検討

【普及啓発】

<主な意見概要>

- ・普及啓発はしっかり進めることが大切、教育委員会と連携するなど子どもからの学習が非常に重要。
- ・農地の被害は、対策を取った上であつれきがどうあるかというところがセットで考えるべき。
- ・観光、農政など連携した取組が大切。
- ・現場を見ていない人の批判に対して、実際に現地で人が困っていることを示していくのことも必要。
- ・頑張っって捕獲しているのに、批判されてはやりきれないので、道として後押しする意思を見せることも重要。

⇒ 今後検討

【狩猟期間の延長】

<主な意見概要>

- ・個体数管理とも関係してくる。許可捕獲（春期管理捕獲含む）で達成できない数を期待される。
- ・捕獲技術者へのインセンティブが低い中で、狩猟の枠組みで全国から関心のある人が来ることに期待が持てる。
- ・目標個体数を提示していく中で、達成促進のため必要に応じ導入していくことになるのではないか。

⇒ 個体数管理の捕獲強化の手法として検討。

【捕獲従事者の確保】

<主な意見概要>

- ・地域ごと、振興局ごと、市町村ごとに捕獲従事者の状況を把握し、今後の可能性を明らかにしていくことが必要。
- ・狩猟者全体のかさ上げも重要だが、クマ捕獲となるとすぐにどうこうできる話ではない。
- ・地域で捕獲技術者が安定して活躍できるシステム・体制を作ることの両にらみで取り組んでいく必要。
- ・地域で出張ってもらう従事者は、地域とのつながりや、地域のために働く気概などが大事。
- ・課題に対し、できるところから早急に取り組んでいかなければいけないと感じる。
- ・地域にヒグマ問題を正しく理解している人材がいれば、捕獲従事者もきちんとした普及促進ができるようになると思う。

⇒ <現状>

ヒグマ捕獲従事者の72%が60歳以上（令和3年度）、ヒグマ捕獲従事者の確保が困難な市町村も顕在化。

< R 6 年度事業（狩猟者育成・確保）>

地域の担い手確保検討会の開催（市町村の取組促進）、狩猟のあり方を考えるフェアの開催（理解促進）、狩猟初心者向けの射撃技術研修（技術向上）、狩猟者向け捕獲講習（ヒグマ技術講習）、首都圏での狩猟の魅力PRイベント
狩猟体験ツアー（来道促進）